

## 富山県内のスミレについて 第1報

塩谷佳和

Yoshikazu Shiotani : Violet Flora of Toyama I

富山県内のスミレの分布は、はっきり言って、判然としない。よくわからないのである。しかしながら、富山県内に生育するスミレの種類数は見当が付く。24種1変種（逸出帰化種3種を含む）である。それを検索表にすると次のようになる。

- A<sub>1</sub> 花は黄色で、花時に地上茎がある。
- B<sub>1</sub> 地上茎は直立し、紫赤色を帯びる。地下茎は横出し、長い根茎を伸ばす。 オオバキスミレ
- B<sub>2</sub> 地上茎は斜上し、地下茎は根茎を長く伸ばさず、根はひげ根状となる。
- C<sub>1</sub> 葉の質は薄く軟らかく、葉面は平坦で、地上茎はやや淡い緑色。 キバナノコマノツメ
- C<sub>2</sub> 葉の質は硬く光沢があり、葉脈上が凹み、地上茎は紫紅色を帯びる。 タカネスミレ
- A<sub>2</sub> 花は紫～白色。
- B<sub>1</sub> 子房、果実は無毛で、朔果は鋭頭楕円形～卵形。
- C<sub>1</sub> 地上茎があって、直立、斜上、または横伏する。
- D<sub>1</sub> 唇弁の距は長さ10～18mm、斜上して上弁の上に出る。根生葉は円状心臟形～卵状心臟形～卵状三角形。花は淡紫色で、根生、または地上茎に生じる。 ナガハシスミレ
- D<sub>2</sub> 唇弁の距は長さ4～9mm、上弁の上には出ない。
- E<sub>1</sub> 根生葉は心臟状円形～卵形～卵状披針形。若葉は軟く、裏面に紫色を帯びるが、後に肥厚して光沢を生じる。地上茎は横伏して新株を作る。 テリハタチツボスミレ
- E<sub>2</sub> 根生葉は円状心臟形～心臟形。葉裏は緑色。
- F<sub>1</sub> 葉面は平坦で、葉の質はやや硬め。花は淡紫色で、根生または地上茎に付ける。 タチツボスミレ
- F<sub>2</sub> 葉脈上が凹み、葉の質は軟らか。花は淡紫色で、直立する地上茎に付け、根生しない。全体大型。 オオタチツボスミレ
- F<sub>3</sub> 葉脈上が凹み、葉は厚く、光沢が強い。花は濃紫色で、花弁が丸く、根生または直立する地上茎に付ける。 イソスミレ
- D<sub>3</sub> 唇弁の距は長さ1～3mmと短く、袋状。花時には地上茎が長く伸びている。
- E<sub>1</sub> 葉は卵状心臟形～腎臓状心臟形～三角状腎形。花は白色で唇弁に紫条がある小輪咲き、斜上、横伏する地上茎に付ける。 ニョイスミレ（ツボスミレ）

- E<sub>2</sub> 葉は円状心臟形、質は薄く、表面に短毛が生える。花は淡紫色、横伏する地上茎に付ける。 ミヤマツボスミレ
- C<sub>2</sub> 地上茎はない
- D<sub>1</sub> 地下茎は短く、葉のもとからすぐに根が出ているように見える。
- E<sub>1</sub> 葉は分裂し、花後に大型化し、裂け方が荒くなる。葉は三裂した後、細裂する。花は淡紅紫色で、花弁の先が波打つ。 エイザンスミレ
- E<sub>2</sub> 葉は分裂せず、縁は低鋸歯。
- F<sub>1</sub> 葉は縦長で、長卵形～長楕円形状をする。花後に大型化し、葉形が変化する。
- G<sub>1</sub> 花時の葉は長楕円状披針形、花後は三角状卵形となる。根は白色、古くなると茶色に変わる。花は白～淡紫色で唇弁に紫条があり、距は短い。 アリアケスミレ
- G<sub>2</sub> 花時の葉は三角形披針形、花後は卵状狭三角形となり、光沢がある。根は茶色、花は濃紫色、唇弁の距は太く長い。 スミレ
- G<sub>3</sub> 花時の葉は三角状広披針形、花後は狭三角形となる。根は白色、花は濃紫色、唇弁の距は細長い。 ヒメスミレ
- G<sub>4</sub> 花時の葉は三角状卵形～三角状広披針形、花後は狭披針形、裏面は紫色を帯びる。根は白色、花は淡紅紫色、唇弁の距は細く極しく長い。 マキノスミレ
- G<sub>5</sub> 花時の葉は心臟状卵形、花に大型化するが葉形の変化は少なく、長毛が密生する。根は白色、花は白色で唇弁に紫条があり、距は太い。 ヒカゲスミレ
- F<sub>2</sub> 葉は丸く、卵形～円心形状をし、花後も葉形に変化はない。根は白色。
- G<sub>1</sub> 葉は心臟状円形～卵状円形、暗緑色の地に脈沿いに白斑があり、裏面は暗紫色～紫紅色。花は紅紫色、唇弁の距は細長い。 ファイリゲンジスミレ
- G<sub>2</sub> 葉は卵形～広卵形～卵心形～心臟状円形、裏面に紫色を帯びる。花は白色で唇弁に紫条があり、ときに紫色を帯びる。距は短く、全体小型。 フモトスミレ
- G<sub>3</sub> 葉は卵心形で先端鋭頭、半膜質で薄く、表面にまばらに毛が生える。花は紫色。 ミヤマスミレ
- G<sub>4</sub> 葉は心臟状円形～腎臓状円形、膜質で薄く無毛、裏面は光沢がある。葉年の枯れた葉柄や托葉が残る。花は白色で唇弁に紫条がある。 ウスバスミレ
- D<sub>2</sub> 地下茎は太く長く、結節し横走する。花は葉の展開に先立って咲き、淡紫色、花弁が波打つ。葉は円状心臟形～心臟形。全体大型。 スミレサイシン
- D<sub>3</sub> 地下茎は太く長く、結節するが短く、分岐して株立ちとなる。葉は円状心臟形～心臟形。花は紫～白色、変化に富む。全体大型。 チョウガタスミレ

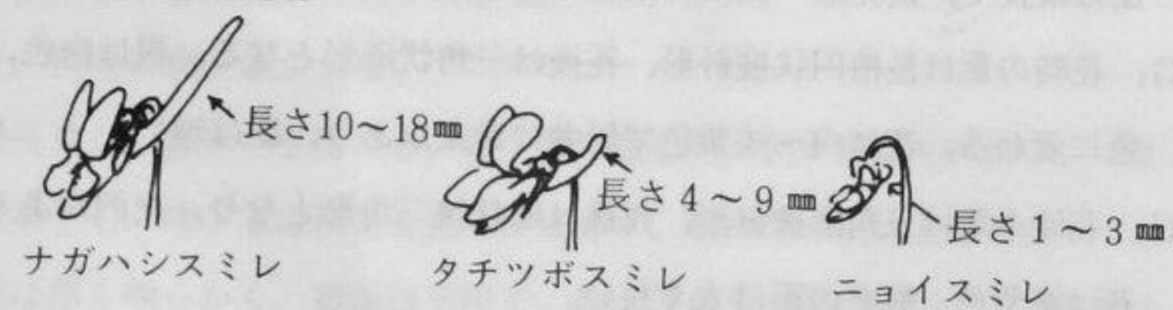
B<sub>2</sub> 子房，果実は植物体全体に毛を密生する。

C<sub>1</sub> 朔果は鋭頭長楕円形。地上茎はなく，地下茎は極めて短い。根は白色で，太いものが数本以内。花時の葉は卵形～楕円状卵形，花後は長期状心臓形，花は紅紫色。 アカネスミレ

C<sub>2</sub> 朔果は球円。直立，斜上する地上茎はないが，匍伏茎を出して新株を生じる。根は白色で，細いものが多数ある。葉は心臓状円形，先端円頭，花は淡紫色。 オオイスミレ

A<sub>3</sub> 花は上弁紫色，唇弁黄色に紫条の複色，花弁は丸い。葉身は卵形。托葉が大きく，葉柄と同長またはより大きく，掌状に裂ける。地上茎があって，直立または斜上する。 ビオラ

距の形態

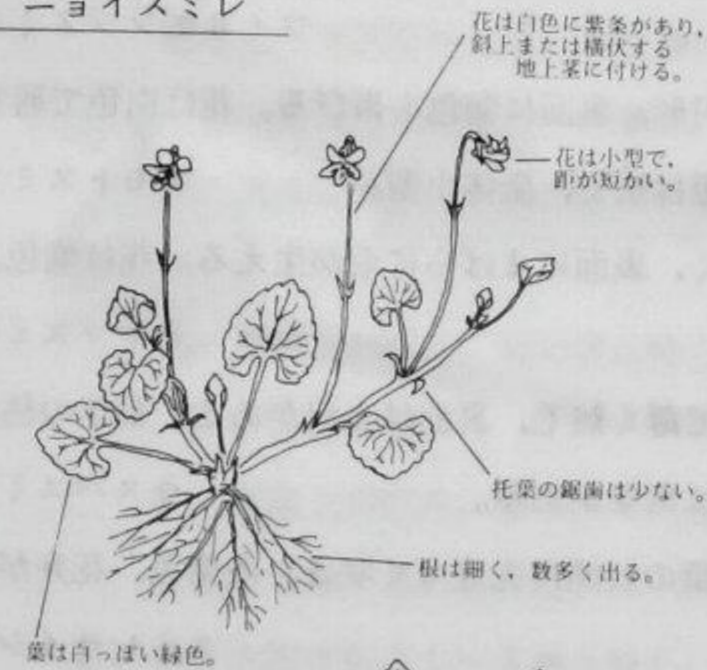


富山県に分布するスミレの内もっともよく見掛けるのはニョイスミレ（別名ツボスミレ），タチツボスミレ，オオタチツボスミレの3種である。

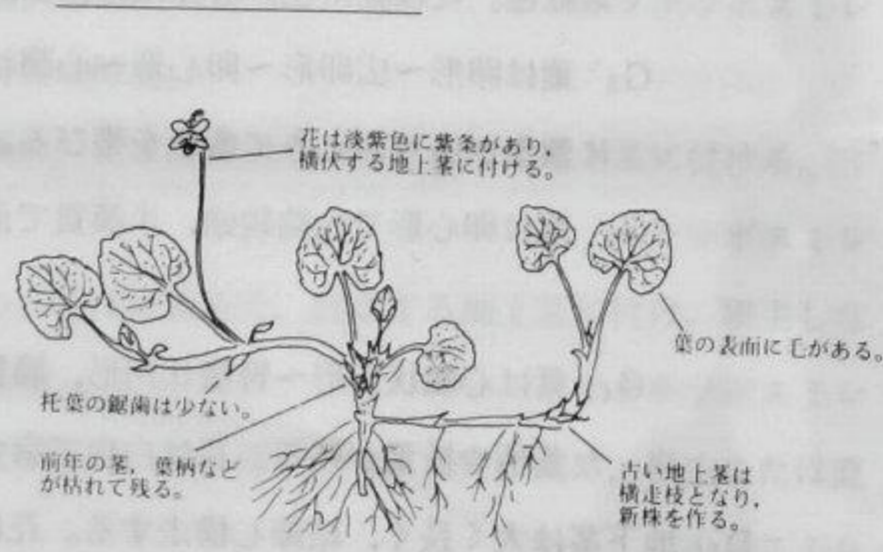
ニョイスミレは湿潤な土地を好み，転作田，畦畔，山手の畑地，川河敷，山地の谷沿い，湿った林下，湿原など標高0～2200mの範囲に生育する。生育地の環境条件が多様で個体数が多いために形態に変異の中がある。葉が三日月状になるものをアギスミレと言って変種として扱うが，栽培すると三角状腎形～腎臓状心形となるため，陰地に生育する徒長した個体であると考えられる。

ミヤマツボスミレはニョイスミレの高山における適応変種であり，標高1200～2500mの雪田のヌマガヤ=イワイチョウ群集の隣伴種として餓鬼の田（池塘）周辺の湿潤地に生育する。

ニョイスミレ



ミヤマツボスミレ



アギスミレとも呼ばれる徒長した個体の葉

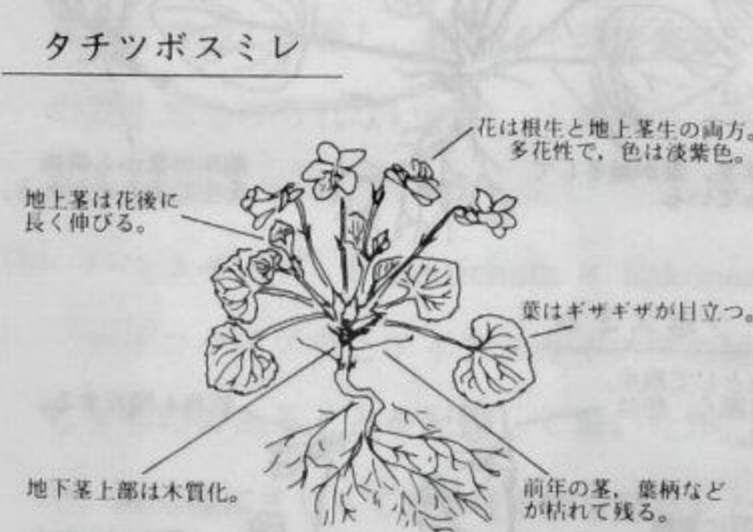
タチツボスミレとオオタチツボスミレは実によく以ている。一番大きな違いはタチツボスミレが花を根生し，オオタチツボスミレは根生せず必ず長く伸びた地上茎に付けるということである。

富山県内の分布は両種とも標高0～2000mの林下，林縁，路傍，田の畔などに生育するが，水分環境が多少違う。タチツボスミレは乾きぎみの場所を好んで石垣の間やがけ地にも出現するのに対し，オオタチツボスミレはより湿潤で肥沃な場所を好み，両種ははっきりと住み分けている。

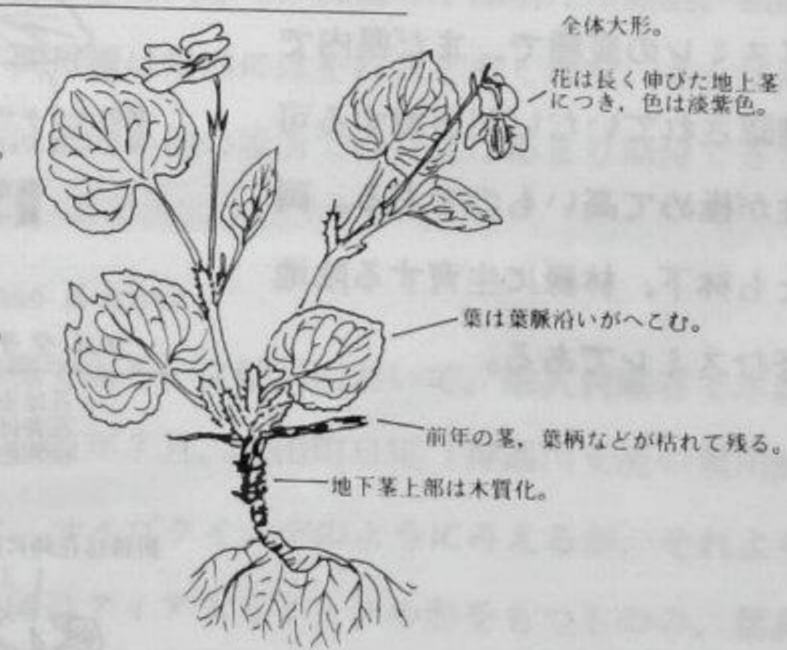
タチツボスミレとオオタチツボスミレの対比

	タチツボスミレ	オオタチツボスミレ
花	 花卉の筋は中央の3本が長く目立つ。 距は細く丸く，赤紫色を帯びる。 (断面は○)	 花卉の筋は平均して数多く入る。 距は太く扁平，色は白い。 (断面は○)
葉	 葉の表面は平坦，縁はギザギザが目立つ。 花時は2～3cm程。	 葉は葉脈沿いがへこむ。縁のギザギザは目立たない。 花時は4～5cm程。

タチツボスミレ

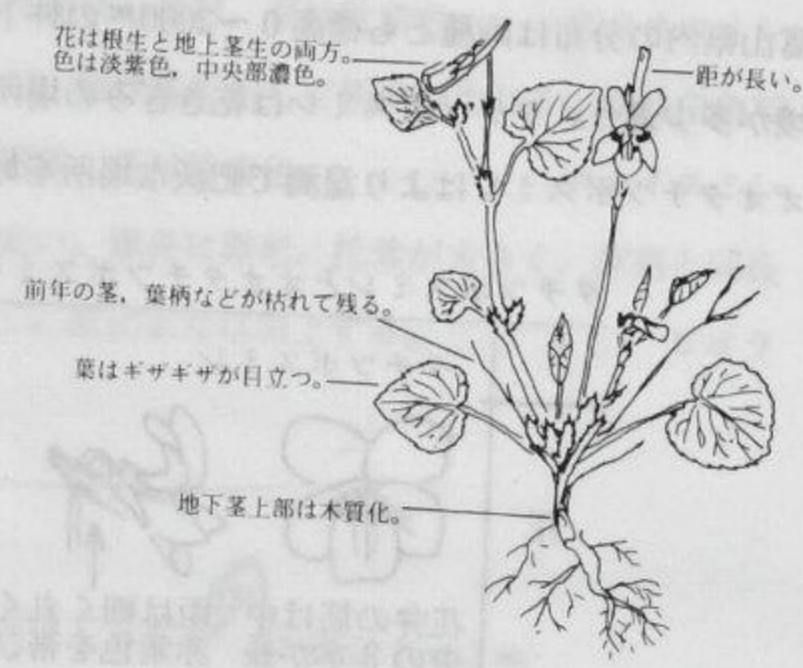


オオタチツボスミレ



ナガハシスミレも比較的良好に見受けられるスミレである。富山県内では標高50~1600mの草地、林縁、明るい林下に生育する。本種は典型的な隔離分布をし、日本海側の多雪地帯と北アメリカ東部のアパラチア山脈に見られ、第4氷河期を生き残った植物の一つとされる。本種は花の唇弁の距に特徴があり、長く斜上して上弁より上に出る。別名のテングスミレ、学名の *rostrata* (クチバシ状の)、英名の Long-spurred Violet (長い突起のあるスミレ) という呼び名はこの距の形に因むものである。

ナガハシスミレ

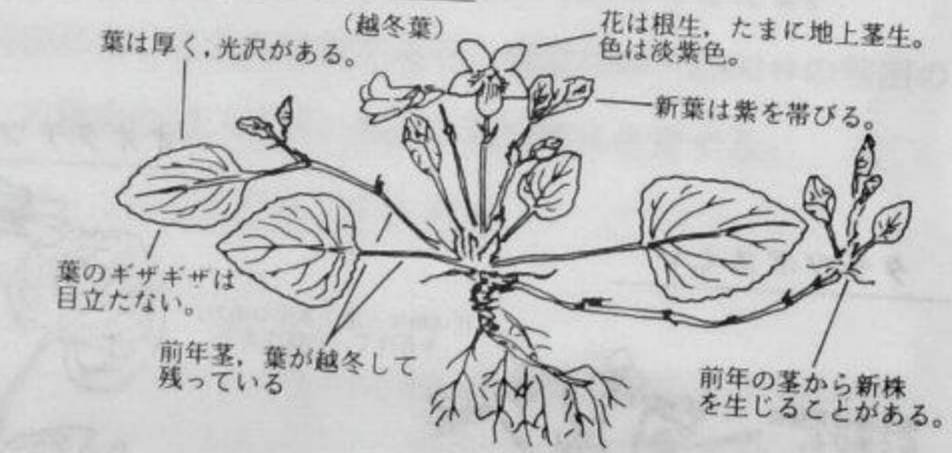


この一文を第一報とするのは富山県内のスミレの分布がどのようになっているのかがわかっていないためです。個体数の少ないものや群落を作らない種類については全くわからないと言ってよい程です。もっともっと歩いて標本を得、環境を調査したいが一人では難しく、学会員諸先生方に御協力を願う次第であります。スミレの標本、生品乾物を問わず、送付下されれば幸いです。必ず調査して返事を差し上げます。特に次の2種のスミレの分布はわからず、指名手配とするものです。

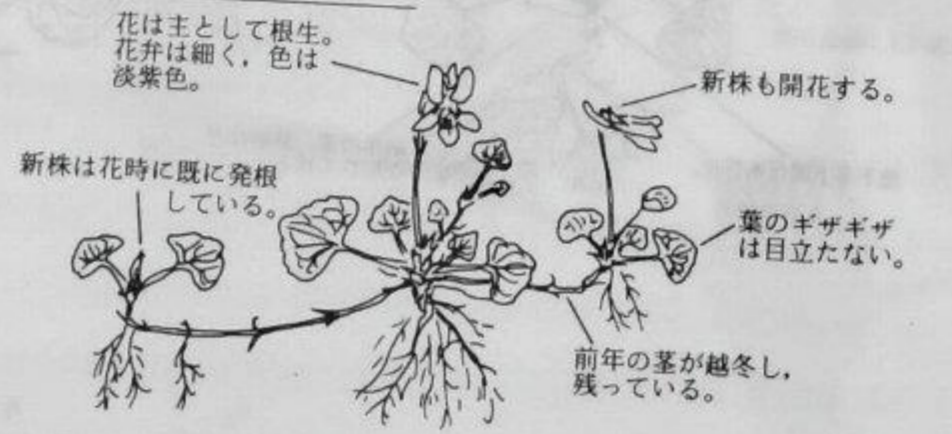
テリハタチツボスミレは二上山に自生地を確認しているが、まだまだ県内に多く出現すると考える。ツルタチツボスミレはテリハタチツボスミレの変種で、まだ県内では確認されていないが出現する可能性が極めて高いものである。両種とも林下、林縁に生育する陰地を好むスミレである。

指名手配

テリハタチツボスミレ



ツルタチツボスミレ



(スミレ標本の送付先 930 - 11 富山市堀川小泉町1-22-2-211 塩谷佳和 まで)

富山県産シダ植物雑記(3)

大島 哲夫

富山県産のシダ植物について 小路 (1970) ①によって略目録の形でまとめられ、筆者はその後、新しく分布の確認された種類や稀産種の新しい生育地の報告を行った。③④⑤現在、日本シダの会では、シダ分布調査を進めているが、本県のシダ標本を集めるため県内各地の調査にあたっており、その間、6つの雑種が県内に分布していることを新しく確認できた。また、県内における分布量のきわめて少ない種類の生育地もいくつか記録できた。氷見市に記録できたシダもかなり増え、前報⑤に記した神通川流域のシダにも追加すべき種類もでてきたので、これらについて報告しておく。

(1) シダの雑種 (6種類) の記録

シダ植物の雑種については、県内ではいままで9種類の報告をみており、今回報告するもので15種類になった。いずれも、中池敏之博士 (国立科学博物館) の同定を得たものである。

(a) フタツキノオ *Plagiogyria* × *sessifolia* Nakaike

キジノオシダとオオキジノオの雑種である。入善町柳原の杉沢は黒部川扇状地末端近くの湧水地帯に多数発達していた杉沢のうち現在残されている唯一のもので、天然記念物の指定を受けて保護されている。林内には小さな河道が蛇行しながら何本も流れ、林内の湿度は保たれ、冬期には温度も保たれやすく、林床植物も豊富で、暖地性植物も多い。林床植物としてシダ植物、ことにキジノオシダ、オオキジノオの生育量も多いことが目にとまる。1978年8月、この林内において、この雑種に気づいた。両母種よりも大形で、裸葉の下部羽片は無柄、楔脚、中部羽片は少し着生し、胞子は不熟である。両母種は県内にはそれほど多くなく、さらに両母種の混生地もみられないので、本雑種の分布は県内の他の場所での発見はあまり期待できないであろう。

(b) ハコネイノデ *Polystichum* × *hakonense* Kurata

サイゴクイノデとアイアスカイノデの雑種である。文献②において、細入村庵谷で本雑種らしきもののあることを記録しておいたが、1981年7月、大山町日尾 (神通川支流の黒川流域) で、両母種にまじって本雑種5株を発見した。サイゴクイノデのようにみえるが、それより大きく、葉身が先に向ってしだいに細くなり、全体はアイアスカイノデの形をもつものの、葉身の色はアイアスカイノデほど濃くなく、また、サイゴクイノデよりもやっつやがあり、中軸鱗片はどちらかといえばサイゴクイノデに似た感じを与える。本県にはアイアスカイノデの分布は多いが、サイゴクイノデの県内の記録は少ないので、本雑種もきわめて珍しい分布となるであろう。